

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 静岡県富士市立岩松北小学校（※正式名称を記載）
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒416-0901
静岡県富士市岩本123-1
E-mail p-iwamatsukita@div.fujicity.jp
Website <http://www2.city.fuji.shizuoka.jp/~p-iwakita/>
幼児児童生徒数 男子 359名 女子 333名 合計 652名
幼児・児童・生徒の年齢 7歳～ 12歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

当校は、「よりよい未来を創っていくために、学び考え行動する子」をテーマとして、ESDを学びの視点と捉え、ESDの実践を通して課題を見つけ、追究する力、よりよく表現する力、学びを生活に生かす力、かかわり合う力の育成を目標とした。

具体的には、身近な自然や地域、地域の様子と生活、地域の人々の暮らし、自然と環境、様々な人との交流、自己の生き方を柱に、①生物多様性に係わる活動、②③地域の文化財等（竹・農業）に係わる活動、④地域貢献に係わる学習等を行った。

① 生物多様性に係わる活動（3年1組）

学校の敷地を歩いても植物や生物があまりいないことに気付いた子どもたちは、自分たちの手でそれらを育てることにした。植物に水や肥料をあげたり、生き物にエサをあげたりすることを通して、命の大切さや育てることの難しさを肌で感じた。最後の作文では「海外で密猟している人はやめて。もっと生き物を大切に。」と世界に目を向けたまとめを書く子もいた。

② 地域の文化財（竹）に係わる学習（5年4組）

富士市で有名な昔話、竹取物語から、竹をテーマに活動していくことになった。竹でできることは何かを考え、様々なアイデアを出し合った。竹を通じた人との関わりを目指し、竹箨や竹ぼうきを作って、学校にプレゼントしたり、地域の方を招待して流しそうめんを振る舞ったりした。また、竹の活動を通して、竹の魅力を発信していきたいという思いや、地域の文化財を大切にしようという意識が高まった。

③ 地域の文化財等（農業）に係わる学習（3年4組）

給食の残飯が多かったことから、自分たちの力で食べ物を育て、工夫や苦勞を知ってみようということになった。中でも最も残量が多かったお米を育てることにした。地域の田んぼでの田植えや鳥対策、収穫等を通して、お米を育てることの難しさを感じ、食べ物を大切にしようとする気持ちが高まった。また、地域の様々な人との関わりを通して、地域の文化や産業を大切にしようとする子も見られた。

④ 地域の文化財（地域貢献）に係わる学習（6年2組）

「地域貢献でみんなを笑顔に」というテーマから、スポーツを通して地域貢献をしようと考えた。誰もが簡単にできる取り組みとしてニュースポーツを見つけ、様々なニュースポーツを体験した。その中で自分たちなりの工夫点を加えてオリジナルをつくりたいと考え、下級生、先生方に向けての体験会を開いた。また活動テーマである地域貢献をするために老人ホームにニュースポーツセットを届け、余暇活動で使ってもらえるようお願いするなど、自分たちの手で地域を明るくしようとする意識が高まった。



①の写真（ひまわりを育てよう）



②の写真（苦勞して育てたお米の収穫）



③の写真（竹で箸を作ってみよう）



④の写真（お年寄りに楽しんでほしい）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

ユネスコスクール公式ウェブサイト 教育技術 MOOK「思考ツール」の授業

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、学校教育目標に迫る教育構想の中核にESDの実践を位置づけている。また総合的な学習の時間や生活科を窓口としたESDの実践に取り組むことで、教科や領域、家庭や地域、過去と未来をつなぎ、より良い未来を創っていくために学び考え、行動する子を育てている。具体的には、総合的な学習の時間を柱として各教科にリンクさせたESDカレンダーを作成し、教科横断的な学びの見通しを立てている。そのカレンダーを研修の時間に教員間で検討し合い、修正を続けていく等の改善に努めている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

本校では、ESDの実践として総合的な学習の時間をクラスごとにテーマを設定し、活動している。そのためESDの校内研修を年に何度か開いている。その中でESDカレンダーを提示し、進捗状況を確認し合ったり、悩みを相談し合ったりすることで、同じ目的を共有でき、学校全体としての意識を高めている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

保護者アンケートにおいてESDに関する項目を取り入れることにより、保護者からの評価を得ることができた。多くの保護者はけやき学習を通してのびのびと子どもたちが活動できていることに成長を感じている。

内部の評価としては研修部から各教師にESDに関する自己評価用紙が配られ、それらを集計、提示することによって学校全体の実態把握ができ、来年度の課題が明確になった。

⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

総合的な学習の時間の主任が、市内の総合的な学習の時間の推進員を務め、主任者会で単元構想の大切さを市内全体に発信した。教科横断型の ESD カレンダーは多くの共感を得られ、新たに作り変える学校も出てくるなど、広まりを見せている。また、活動報告として各学級の活動を紹介したお便りを全家庭に配布し、地域の理解と協力を得られることができた。

⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など)(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

静岡大学が主導する「ふじのくにコンソーシアム」事業に参加をした。富士市内で行われた「ESD カフェ」には、多くの職員が参加をした。また、ステークホルダー会議に出席をして、様々な校種の方々と交流をすることで、ESD に対する知識を得ることができた。さらには、1人の教員が ESD 国際フォーラムへ参加をした。タイで実践を発表するとともに、タイの環境教育・自給自足の生活を知ることができた。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

国内外のユネスコスクールとの交流は行わなかった。国内でのユネスコスクールの交流は積極的に進めていこうと思うが、近隣にユネスコスクールがないため、直接会うことは難しい。インターネットを活用しての交流の形を検討していきたいと考えているが、まずは交流できる学校を探していきたい。

海外の学校は、ネット環境や言語、時差の問題がある。言語については、平成32年度から実施される外国語活動を有効的に活用して、問題を解決していきたい。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

本校での ESD の実践を授業参観等で発信したり、保護者や地域に向けて各クラスの実践をまとめた「けやきだより」を発行したりすることで、家庭や地域の方の理解を深めることができた。そのことにより、子どもたちの活動に進んで関わってもらうなど、協力的な面が多く見られた。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400 字程度）

来年度の ESD の実践として以下の追究の道筋を立てている。
本校の ESD のテーマ「よりよい未来を創っていくために、学び考え行動する子」
↓
学年の大テーマ
1 年生・・・身近な自然や地域（生活科・学校・家庭）
2 年生・・・地域の様子と生活（生活科・学校・地域）
3 年生・・・地域の人々の暮らし（地域・自然・食育・伝統文化）
4 年生・・・自然と環境（環境・自然・地域・文化・安全）
5 年生・・・様々な人との交流（生命・交流・福祉・食育・地域）
6 年生・・・自己の生き方（キャリア教育・国際理解・伝統文化・地域貢献）
特別支援学級・・・自立と交流（生活単元・自然・交流・地域）
↓
学級のテーマ
↓
個、グループのテーマ
この流れにより、学校体制として ESD の活動実践に取り組んでいく。